

# 盛岡市遺跡の学び館 平成18年度 館報



西鹿渡遺跡第20次調査風景

盛岡市遺跡の学び館

## はじめに

埋蔵文化財の発掘調査と資料の整理・収蔵を柱に、調査成果の公開・活用を図ることを目的に当館が開館以来、昨年5月末に満3年を数え、今年6月には節日の5年目を迎えることとなりました。埋蔵文化財センターとしての重要な機能である発掘調査は、毎年20件近く実施してまいりましたが、18年度の調査実績は、17遺跡20件を数えました。

発掘調査の原因には、学校建築や道路建設、区画整理や下水道工事などの公共事業、民間の開発に伴う造成工事等、さらには個人住宅の新築、増築などがあるほか、史跡整備のための学術調査なども含まれます。

この発掘調査によって得られた出土品は、整理等を経て当館に収蔵され、あるいは展示室での公開などによって広く紹介しております。

この公開活用を行うための展示活動や普及活動も当館の大きな柱でございます。18年度の企画展は、平成18年1月の玉山村との合併を記念した「玉山の遺跡」と「黄泉への入り口～古代蝦夷首長の墓～」を開催し、多くの方々のご来場をいただきました。本企画展の合間には、17年度から始まった市内の遺跡や歴史をエリア別に紹介するテーマ展として「繁地区」と「上田地区」をとりあげ、地域の個性ある歴史を紹介いたしました。また、年度末には当該年に調査した成果を速報する「埋蔵文化財調査資料展—平成18年度調査速報—」を開催しております。

当館の利用状況は、入館者数は前年度並みの推移となっておりますが、体験学習室の利用者数は17年度の3.5倍に急増いたしました。これは、主催事業としての体験学習の場の拡充がひとつの要因でもありますが、開館3年目を迎えて当館の認知度の高まりを背景に、北海道や宮城県などからの修学旅行生が急激に増加したことが挙げられます。市内の教育課程における利用の促進とともに、広く県内外からの受け入れのため、施設や業務のさらなる充実を図り、多くの皆様方のご来館を願うものであります。

今後とも関係各位のなご一層のご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年3月

盛岡市遺跡の学び館  
館長 武石幸久

## 例 言

- 1 本書は、盛岡市遺跡の学び館の平成18年度館報である。
- 2 本書の編集執筆は、当館職員が協議して行った。各章ごとの執筆者は、章末に記載した。
- 3 IV章3遺跡発掘調査事業に記載の内容は、平成18年度に当館が行った発掘調査事業の成果の概要をまとめたものである。成果の速報的な略報であり、発掘調査報告書は別に発刊する予定である。
- 4 IV章3の埋蔵文化財発掘調査の記載についての例言は以下のとおりである。
  - (1) 遺構の平面位置は平面直角座標X系を座標変換した調査座標で表示した。なお、座標は日本測地系を使用している。調査座標軸は第X系に準じる。調査座標原点は以下のとおりである。

・南仙北、稲荷、官沢、小幡、新堰端	X=-35,000.000	Y=+25,000.000		
・紫V、紫VII	X=-32,200.000	Y=+24,000.000	・上畑	X=-40,500.000 Y=+29,100.000
・高槽A	X=-39,000.000	Y=+28,000.000	・黒石野平	X=-29,000.000 Y=+27,000.000
・山王山	X=-33,500.000	Y=+28,500.000	・宿田南	X=-32,000.000 Y=+25,000.000
・志波城跡	X=-35,000.000	Y=+23,700.000	・埜館	X=-32,500.000 Y=+25,000.000
・西鹿渡	X=-37,400.000	Y=+28,600.000		
  - (2) 高さは標高値をそのまま使用している。
  - (3) 上層図は堆積の仕方を重視し、線の太さを使い分けた。土層注記などは本文でふれる以外は割愛した。層相の観察にあたっては、『新版標準土色帖』（1994 小山正忠・竹原秀雄）を参考にした。
  - (4) 遺構記号は以下のとおりとした。  
窪穴住居跡：RA、建物跡：RB、柱列跡：RC、土坑：RD、竪穴：RE、焼土遺構：RF  
溝跡：RG、配石・築石遺構：RH、古墳など：RX
  - (5) 本書に使用した地図は、国土交通省国土地理院発行の5万分の1「盛岡」[尖幅]である。
  - (6) 発掘調査にともなう記録や出土遺物は、当館で保管している。
  - (7) 図の表現について
    - ・遺跡範囲については、過去の調査成果や遺跡の地形、遺物の散布状況をもとにした推定範囲である。
    - ・遺構の平面図で、複数の遺構を同一図面に表示する場合、説明する遺構は実線で表し、重複遺構は一点鎖線、掘り込み面に層位差のある重複遺構は二点鎖線で表した。
    - ・土器は、縄文土器・土師器・あかやき土器・須恵器に大別した。縮尺は図ごとに表記してある。

# 目 次

はじめに	
例言 目次	
I 沿革	1
II 施設概要	2
III 管理運営 条例・規則等 職員体制	4
IV 事業概要	
1 管理運営	5
・遺跡ネットワーク整備委員会 ・利用者数一覧	
2 学芸事業	7
・第4回企画展 盛岡・玉山合併記念特別展「玉山の遺跡」	
・第5回企画展「黄泉への入り口～古代蝦夷酋長の墓～」	
・第24回埋蔵文化財調査資料展「盛岡を発掘する」—平成18年度調査速報—	
・テーマ展 ①「繁地区の遺跡」 ②「上田地区の遺跡」	
・講演会 ・セミナー ・体験学習会 ・現地説明会 ・学芸関係刊物物 ・研修、実習受入	
・講師派遣 (出前講座等) ・研修派遣 ・蔵吉 ・収蔵資料管理システム ・サポーターズクラブ	
3 埋蔵文化財発掘調査	13
○史跡整備関連	
(1) 史跡志波城跡第100次調査	15
・公共事業関連	
(2) 盛南地区遺跡群 (南仙北遺跡第38～39次調査 稲荷遺跡第12次調査 宮沢遺跡第12次調査 小幡遺跡第22次調査)	16
(3) 公共工事関連 (繁VII遺跡第31次調査 繁V遺跡第33次調査 新堰端遺跡第9次調査)	17
(4) 車庫建設 (繁V遺跡第32次調査)	19
(5) 国土交通省関連 (杜久保V遺跡第2次調査)	20
○民間開発関連	
(6) 上畑遺跡第9次調査	21
(7) 高槽A遺跡第3次調査	23
(8) 黒石野平遺跡第7次調査	25
(9) 山王山遺跡第11次調査	26
(10) 里館遺跡第52次調査	28
(11) 盛岡城遠曲輪跡第13次調査	29
○個人住宅建築等	
(12) 宿田南遺跡第9次調査	31
(13) 西鹿渡遺跡第20次調査	32
(14) 志波城跡第99次調査	32
写真図版	33
報告書抄録	37

# I 沿 革

## 1 (仮称)盛岡市文化財センター建設事業

平成12年12月の文化財調査室の火災(16年度館報に詳細を記述)を受けて、平成13年5月より(仮称)文化財センター建設に係る庁内外との協議(企画調整課・財政課・管財課・契約検査課・公園緑地課・建築営繕課・地域整備公団)を開始し、総合計画との関連および予算措置について、建設用地について等の協議をおこなった。各関係機関との協議を経て、同年7月には文化庁から埋蔵文化財センター建設事業(国庫補助)について平成14年度の事業実施の方向性が打診された。建設用地は、市先人記念館・市子ども科学館・県立美術館の立地する盛岡市中央公園地内に決定し、諸機関との調整も整ったことから同年8月に事業開始となった。

平成13年度は、(仮称)盛岡市文化財センター建築基本設計及び展示構想策定業務委託、ボーリングによる地質調査、給排水設備工事を実施した。建築基本設計は指名競争入札により業者を決定したが、展示構想策定業務についてはプロポーザル(書類審査)方式をとり、受託者選定委員会を開催し業者を選定した。

平成14年度は、建築実施設計・展示施設計画

策定業務委託・建築工事・土木工事を実施、実施設計を受け9月26日から建築工事に着手、14年度では全体の47%が完成した。展示施設計画策定業務委託では展示構想に基づき、展示室内における展示手法・演出方法等について検討し、展示施設製作に向けての方向性を策定した。

平成15年度は建設事業の最終年度にあたり、建築工事・展示施設製作・簡易リフト設置工事・敷地植栽工事・備品購入を実施した。建築工事は11月28日に完了し、12月下旬には文化財室(旧中央卸売市場事務所棟)から文化財調査資料整理作業の機能を移転、当施設において整理作業を開始した。

展示施設製作は11月まで工場での模型や展示什器、各種演出に係る装置の製作を行い、11月の施設引渡しを受けて現地での製作に着手、各種グラフィックの製作を経て翌年の2月25日に業務を完了、各種備品購入や機器取り付けについても完了、施設名称を「盛岡市遺跡の学び館」と定め、平成16年6月1日に開館式典を挙行、同日開館した。

## 2 事業経過

平成13年度	「(仮称)盛岡市文化財センター建築基本設計」策定 展示構想策定業務 地質調査
平成14年度	建築実施設計 展示施設計画 建築工事・土木工事
平成15年度	建築工事・土木工事 展示施設製作業務委託 盛岡市遺跡の学び館設置条例制定
平成16年度	盛岡市遺跡の学び館施行規則制定
平成16年6月1日	盛岡市遺跡の学び館開館
平成18年9月3日	開館以来利用者数3万人を超える

### 3 事業費等

・建設事業費 677,123千円（国庫補助210,000千円・県補助105,000千円）

総事業費	677,775千円
建築設計委託	24,985
建築工事費	455,490
土木工事費	43,543
展示計画策定業務委託	8,820
展示施設製作業務委託	91,308
備品購入費	44,700
その他	6,909

建築設計	株式会社三衛設計舎
展示施設構想策定・製作	株式会社丹青社
建築主体工事	株式会社阿部正工務店
敷地造成工事	有限会社東北農林建設
電気設備工事	新興電機株式会社
給排水設備工事	有限会社門板工業
機械設備工事	中央水道土木株式会社
地質調査業務委託	旭ポーリング株式会社
敷地植栽工事	株式会社やまいわ
簡易リフト設置工事	三機商事株式会社

## II 施設概要

#### (1) 施設の名称と位置

名称 盛岡市遺跡の学び館  
住所 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1

#### (2) 設置 平成16年3月31日 開館 平成16年6月1日

#### (3) 施設の概要

・構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造  
平屋（一部重層）  
・敷地面積 5,788.8㎡  
・建築面積 2,639.9㎡  
・延床面積 2,748.72㎡

#### (4) 室名と面積

展示部門 常設展示室（450.8㎡） 企画展示室（81.4㎡） 展示器材室  
教育普及部門 研修室（117.0㎡） 図書資料室（47.7㎡） 図書室（66.3㎡）  
体験学習室（70.9㎡） 研修機材室 学習器材室等  
収蔵部門 保管展示室（897.3㎡・1階517.8㎡・2階379.5㎡）  
特別収蔵室（46.5㎡） 写真収蔵室（27.2㎡） 図面収蔵室（27.2㎡）  
調査整理部門 資料整理室（237.2㎡） 遺物洗浄室（37.1㎡） 写真撮影室（28.8㎡）  
保存処理室（14.7㎡）  
管理部門 会議室（30.8㎡） 事務室（157.7㎡） 荷解室（24.5㎡） 休憩室（12.7㎡）

#### (5) 収蔵資料

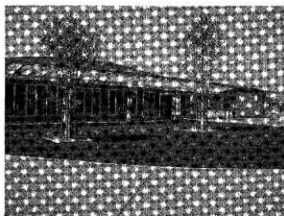
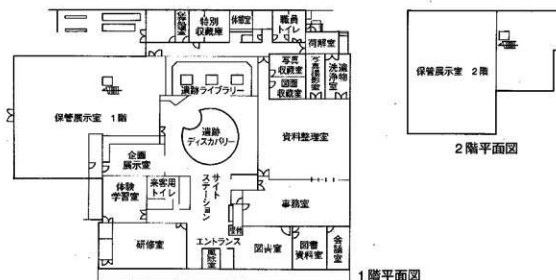
考古資料 実物（土器・土製品・石器・石製品・陶磁器・鏡・古銭・金属器・木製品・瓦・  
装身具・小判・サンプル） 約5,000点  
実物（コンテナ 骨角器、自然遺物含む） 大284箱 小10,466箱  
※コンテナ 大503×700×397mm 小387×586×142mm  
模型 3点  
図面（原図・第2原図・遺物実測図等） 約2,900枚  
写真 プリント（白黒・カラー）124,191枚、スライド 41,040枚

(6) 業務の内容

- ア 埋蔵文化財の発掘調査
- イ 発掘調査資料の整理
- ウ 出上品等調査資料の取蔵・展示及び活用
- エ 教育普及活動

(7) 事業費（平成18年度決算額）

- ア 管理運営事業費 76,392千円  
施設設備の維持管理、遺跡ネットワーク整備委員会の開催経費等
- イ 学芸事業費 8,010千円（うち国補助3,550千円）  
企画展、講演会、体験学習会、学び館セミナー、資料管理システム製作、等
- ウ 盛岡遺跡群発掘調査事業費 3,926千円（うち国補助1,863千円 県補助745千円）  
個人住宅建築に係る事前調査及び大館町遺跡の内容確認調査等  
（発掘調査、資料整理及び発掘調査報告書の刊行）
- エ 埋蔵文化財調査事業費 29,621千円  
公共事業（盛南地区区画整理、市道建設、下水道工事等）にともなう発掘調査



外観



展示室（遺跡ライブラリー）

第1図 館内平面図・外観及び展示室





(3) 戦国書特別展 昭和38年(法律第168号)第4条第1項の戦国書等

(4) 加刺印字館蔵書手続交付規則(昭和49年若手組規則第57号)第2条の蔵書手続

3 第1項の規定にかかわらず、条例第5条第2項に規定する者であることを証する書面を有する者が該館の及び他の基本館を個人で使用する場合の別項の申請書の提出については、当該書面の提出をもってこれに代えることができる。(費用料を減額する旨)

第4条 条例別表第1号の次の備考2の規定で定める日は、毎月の第2土曜日及び第4土曜日とする。

(費用料を減額する旨)

第5条 条例別表第1号の次の備考2の規定で定める中学校生徒及び小学校児童は、市の区域内に住所を有する中学校生徒及び小学校児童並びに市の区域内に住所を有する市での区域内にある中学校(北陵中学校を含む。)及び小学校(片が丘小学校を含む。)に就学しているものとする。

期 間

この規程は、条例の施行の日(平成16年6月1日)から施行する。

別表(第2条関係)

区分	使用料	
	単位	金額
舞台設備	舞台(時給別)	1台 390円
	演出(時給別)	1台 520円
	ステージ	1台 130円
音響設備	音響機器	1式 1,500円
	スピーカー	1式 260円
	マイクロホン	1本 130円
	スライドプロジェクター(ケース付き)	1式 390円
	マルチプロジェクター	1式 1,300円
映像設備	ビデオ・映像DVDレコーダー	1台 390円
	テレビ	1台 260円
	電気照明器具	1套 2,600円
	音響ひろくろ	1台 490円
実習用設備	手回しろくろ	1台 130円
	グライNDER	1台 390円
	織物糸のご盛	1台 390円
	ぬいぐるみ機	1台 390円
	簡易展示パネル	1式 390円
その他の設備	移動型スクリーン	1台 130円
	レーザーポインター	1台 130円
	待たせ照明に係る電気使用	1時間以上 100円

備考 午後9時から午後5時まで使用する場合は使用料の額は、この表に開示する額に2を乗じて得た額とする。

## 2 職員体制

館長(非常勤) 三浦 晃

館長補佐兼管理係長 佐藤 和男

### [管理学芸部門]

(主査1・非常勤2・臨時1)

主査 杉浦 雄 治  
 学芸調査員(非常勤) 鷹 鷲 あゆみ  
 文化財調査員(非常勤) 吉 田 里 和  
 臨時職員 菅 原 松 美 (~H18.6.30)  
 吉 田 美 枝 子 (H18.7.1~)

### [調査部門]

(主査2・主任1・主事2・非常勤2)

文化財主査 室 野 秀 文  
 文化財主査 菊 地 幸 裕  
 文化財主任 神 原 雄 一 郎  
 文化財主事 今 野 公 顕  
 文化財主事 佐々木 亮 二  
 文化財調査員(非常勤) 松 川 光 海  
 文化財調査員(非常勤) 鈴 木 賢 治

## IV 事業概要

### 1 管理運営

#### ・盛岡市遺跡ネットワーク整備委員会

盛岡市における中核史跡や重要遺跡の保存活用のため、遺跡整備の基本的方向を定めることを目的として平成12年に設置、遺跡の学び館の開館を機に、当館の運営に関することについても所掌することになった。

【期 日】 平成19年2月26日(月) 13:30~15:30 【会 場】 当館 研修室

【出席者】 委員:委員長 嶋 千秋 ((財)石川啄木記念館館長)

工藤雅樹 (東北歴史博物館館長) 菅野文夫 (岩手大学教育学部教授)

瀧川君雄 ((株)東広社常務取締役) 齊藤直子 (盛岡市生田小学校長)

教育委員会 立花教育部長・武石文化課長、文化課職員及び三浦晃館長 他当館職員9名

【議 事】 ・前回までの協議内容について ・平成18年度遺跡の学び館業務について  
 ・遺跡ネットワーク整備計画について ・平成19年度遺跡の学び館事業計画案について

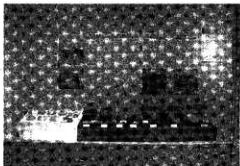


## 2 学芸事業

今年度の当館主催の学芸事業としては、当館企画展示室において3回の企画展、当館研修室において2回の特別講演会と5回の学び館セミナー、当館体験学習室および都南公民館等において8回の体験学習会を開催した。このほかに、学び館特報の発行、発掘調査現場において発掘調査現地説明会の実施、さらに出前講座、各種実習・研修・行政視察受入、体験学習の受入を行った。また展示会の実施や展示室整備および資料管理システム整備等を行うにあたって、国庫補助（風蔵文化財保存整備活用事業）を活用した。

### 【展示会】

- ・第4回企画展 盛岡・玉山合併記念「玉山の遺跡」 会場 当館企画展示室  
 実施日 7月1日(土)～8月20日(日) 来場者数 2,537名 展示資料数 296点  
 展示構成 I 旧石器時代 II 縄文時代 III 奈良・平安時代 IV 中世・近世  
 概要 平成18年1月の盛岡市と平山村との合併を記念しての特別展として、旧平山村（現盛岡市玉山区）の遺跡や遺物を紹介したものである。今からおよそ13,000年前の後期旧石器時代の小石川遺跡をはじめ、縄文時代早期から後期の日戸遺跡、奈良・平安時代の集落跡である釜崎遺跡など、本県の考古学史における重要な遺跡を出土品とともに紹介するとともに、中世の城館跡のパネル写真や近世の一字一石一札供養塔から出土した経石などの展示を行った。  
 作成物 ポスター・チラシ・展示図録・展示解説シート  
 移動展(会場) 浪民公民館  
 実施日 9月2日(土)～9月10日(日) 来場者数 418名 展示資料数 246点
- ・第5回企画展 「黄泉への入り口～古代蝦夷酋長の墓～」 会場 当館企画展示室  
 実施日 11月1日(水)～1月21日(日) 来場者数 2,070名 展示資料数 約170点  
 展示構成 I 人の死～大塚の前方後円墳を作った人々～ II 蝦夷酋長の墓～末期古墳～ III 火葬の導入  
 概要 本州最北端の前方後円墳である角塚古墳（岩手県奥州市）出土の埴輪などの展示などを通して、徳国の古墳や本県や北の文化と南の文化の接点たる盛岡市周辺における古墳の様相について遺構や副葬品などにより紹介したほか、鉄刀や骨武器など近年増えた盛岡周辺の葬送に関する資料を中心に、盛岡及び岩手県内各地の蝦夷の葬送の経過と蝦夷の葬送の独自性を紹介した。  
 作成物 ポスター・チラシ・展示図録・展示解説シート



第4回企画展



第5回企画展



第4回企画展ポスター



第5回企画展ポスター

・第24回埋蔵文化財調査資料展「盛岡を発掘する」—平成18年度調査速報—

実施日	2月1日(木)～6月24日(日)	来場者数	2,902名	展示資料数	231点
展示遺跡	昼久保V遺跡(第2次) 山王山遺跡(第11次) 上畑遺跡(第9次) 西成波遺跡(第20次) 高槽A遺跡(第3次) 志波城跡(第100次) 南仙北遺跡(第38次) 宿川南遺跡(第9次) 盛岡城速出輪跡(第13次) 計9遺跡				
概要	平成18年度の発掘調査の成果を速報展として、盛岡市内で発掘された遺跡の主な出土遺物やパネルを展示した。				
作成物	ポスター・チラシ・解説パンフレット・展示解説シート				

・テーマ展①「繁地区の遺跡」

実施日	平成18年3月29日(水)～6月25日(日)	来場者数	3,916名	展示資料数	195点
展示遺跡	繁V遺跡 葬内遺跡 ほか				
概要	縄文時代から弥生・古代・中世・近世にわたる遺跡が確認されている繁地区を取り上げた。重要文化財の繁宇都宮市出土の深鉢7点をすべて展示したほか、同じく重要文化財の葬内遺跡出土の上供頭部など、縄文文化の秀逸な資料を多く出土し、全国的に知られる繁地区の歴史を紹介した。				
作成物	ポスター・チラシ・解説パンフレット				

・テーマ展②「上田地区の遺跡」

実施日	平成18年9月1日(金)～10月22日(日)	来場者数	2,555名	展示資料数	195点
展示遺跡	西黒石野遺跡 小島沢B遺跡 上田殿典森古墳群 高松神社裏遺跡 久保屋敷セドバ窯跡 上田一里塚				
概要	市内北部の上田地区周辺の遺跡を紹介した。縄文時代の遺跡としては早期から平安時代にかけての西黒石野遺跡、前期末から中期初頭にかけての小島沢B遺跡を、古墳時代は衝角付背や環状鈴形土器を出土した上田殿典森古墳群、平安時代で平場が発見された高松神社裏遺跡や近世の窯跡や現存する上田一里塚などについて、遺物や写真パネル等を展示して紹介した。				
作成物	ポスター・チラシ・解説パンフレット				

【講演会】

1 第4回企画展 特別講演会「玉山の遺跡～岩洞湖畔に始まる“ひと”の足跡～」

日時	平成18年7月9日(日) 13:30～15:30	会場	当館研修室
講師	日本考古学協会会員 武田良大氏	聴講者	43名
概要	北上山系初の旧石器時代の遺跡の発見といわれた旧玉山村岩洞湖畔の小石川遺跡を発見し、その調査に從事された経験をもとに、玉山の地質や歴史を概説しながら、小石川遺跡の状況や旧石器時代の概要などについて講演された。また、玉山の特徴的な遺物のひとつである後北式土器が出土した遺跡を紹介しながら、玉山・盛岡周辺の縄文文化についてもお話し頂いた。小石川遺跡発見の経緯や調査の状況、縄文土器を採取した現地踏査の様子など、氏の体験談がふんだんに盛り込まれた臨場感あふれる講演であった。		

2 第5回企画展 特別講演会「東北北部の古墳群と刀剣類」

日時	平成18年11月5日(日) 13:30～15:30	会場	当館研修室
講師	花巻市博物館長 高橋信雄氏	聴講者	37名
概要	末期古墳と呼ばれる古墳の原内の研究史をたどり、現在の研究成果に至る経緯を紹介されたあと、古墳群の分布と主体部形態の違いが輿論社会の複雑な社会情勢が関わっていることや、周溝が馬路状にめぐる古墳や石積みタイプの主体部の前庭部状の石敷き部分について、墓前祭祀の可能性があることを指摘された。また、古墳出土の刀剣類は、方頭太刀などの直刀と塚子刀に大きく分類され、製作方法の違いや発展過程における用途の違いがある可能性を述べられた。		

【学び館セミナー】(会場は、当館研修室)

開催日	タイトル・講師	聴講者
平成18年 5月14日	厨川・繁地区の遺跡 当館 神原雄一郎文化財主任	15人
平成18年 9月 3日	上田・中津川・旧市街地区の遺跡 当館 室野秀文文化財主査	25人
平成18年11月12日	太田・飯岡・羽場地区の遺跡 当館 今野公顯文化財主事	36人
平成19年 1月14日	乙部・磐川地区の遺跡 当館 佐々木亮二文化財主事	23人
平成19年 3月 4日	平成18年度の調査成果報告 当館 菊地幸祐文化財主査 今野公顯 佐々木亮二 松川光海文化財調査員	55人

当館職員が調査や研究の成果などを市民に平易に紹介するもので、本年度は盛岡市内の4地域のこれまでの発掘調査の成果を紹介しながら、地域の歴史についてわかりやすく解説した。5回目は、埋蔵文化財調査資料展「盛岡を発掘する」平成18年度調査成果速報に合わせて、本年度の調査成果の報告会を開催し、各遺跡の調査成果について担当職員が解説した。

【体験学習会】(会場は当館体験学習室、ただし「歴史ウォーキング」は現地、「縄文体験キャンプ」は都南つどいの森キャンプ場、発掘調査体験は南仙北遺跡、第17～18回は都南公民館にて実施)

開催日	タイトル・講師	参加者
平成18年 5月21日	第13回 「盛岡城と城下町歴史ウォーキング」	11人
平成18年 6月11日	第14回①「考古学者になってみよう」発掘調査体験(現場)	27人
平成18年 6月18日	第14回②「考古学者になってみよう」発掘調査体験(室内)	32人
平成18年 7月16日	第15回 「縄文土器をつくってみよう」	32人
平成18年8月5日～6日	第16回 「縄文体験キャンプ」	親子6組18人
平成18年 9月10日	第17回 「平安の雅なスイーツを味わおう」講師 梅津末子氏(料理講師)	19人
平成18年10月29日	第18回 「腹がへっては戦ができぬ～戦国時代の兵糧をつくってみよう～」 講師 梅津末子氏(料理講師)	18人
平成18年11月26日	第19回 「コハクで勾玉をつくってみよう」講師 佐々木和久氏(久慈琥珀博物館長)	32人

第14回は発掘調査の現場と室内整理の体験を2週にまたがって実施したもので、現場は盛岡地区の南仙北遺跡を予定して行った。「縄文体験キャンプ」は、第15回の「縄文土器をつくってみよう」とのセット参加を呼びかけ、参加者がキャンプ場で自分でつくった土器を野焼きしたり、石器で魚をさばいたり、石皿焼きのハンバーグづくりなど、縄文時代の生活の一端を経験できるメニューを考えた。第17～18回の調理体験では、昨年度に引き続き梅津末子氏を講師としてお招きし、平安時代のおやつや戦国時代の兵糧づくりに挑戦し、参加者が自ら調理しながら味わった。第19回の勾玉づくりでは、久慈琥珀博物館長の佐々木氏の琥珀にまつわるお話を聞きながら、琥珀を材料に勾玉づくりを行い好評であった。

#### 【個人体験学習会】

夏休み期間(平成18年7月22日～8月31日)と冬休み期間(平成18年12月23日～同19年1月21日)に予約不要で勾玉づくり・拓本づくり・土玉彩色・火おこしの体験が行うことができる機会を提供し、2期間延べ558人の利用があった。

#### 【現地説明会】

開催日時	遺跡名(所在地)	参加者
平成18年 7月15日 13:30～14:30	南仙北遺跡第38次調査現地説明会(向中野字鶴子地内)	76人
平成18年 7月22日 10:30～11:30	高橋A遺跡第3次調査現地説明会(永井24地割地内)	46人
平成18年10月 8日 ①11:00～11:30 ②13:30～14:00	志波城跡第100次調査現地説明会(上鹿妻地内)	①②計49人

高橋A遺跡では、奈良時代を中心とする12様の堅穴住居跡や遺物を紹介し、2年前の調査の結果とあわせて、比較的規模の大きい集落跡であったことなどを中心に説明を行った。南仙北遺跡においては、江戸時代の道路跡や古代以降の大溝や古代の堅穴住居跡などを紹介しながら、立地や遺跡の特徴などについて解説した。志波城跡では、南東官衙城の調査で検出した南北5間×2間で、東西に1間の庇を持つ掘立柱建物跡を中心に、官衙の構造等について説明した。

#### 【学芸関係刊物】

件名	発行日	部数	販売価格
遺跡の学び船約報 1～2	年2回	各500部	無料配布
第4回企画展展示図録「玉山の遺跡」	平成18年 7月 1日	400部	400円
第5回企画展展示図録「黄泉への入り口～古代蝦夷酋長の墓～」	平成18年11月 1日	400部	500円
第24回埋蔵文化財調査資料展「盛岡を発掘する」解説パンフレット	平成19年 2月 1日	2,000部	無料配布
もりおかの遺跡「安倍頼遠跡」	平成19年 3月30日	2,000部	無料配布

当館実施事業を広く関係機関や学校などに広報する「特報」及び展示会毎に図録や解説パンフレットを作成している。「特報」とパンフレットは平易な内容で、図録は一般から愛好者までが読めるような内容を心がけている。

## 【研修・実習受入】

開催日	件名	参加者
平成18年 4月12日	盛岡市教育委員会初任者(教員)研修	16人
平成18年 8月22日～26日	博物館実習(計5日間)(東北学院大学1人 盛岡大学2人)	3人
平成18年 9月22日	文部科学省職員教育行政等実務研修	1人
平成18年10月 2日～4日	市職員見聞場体験(盛岡市職員 3日間)	6人

当館では、博物館実習をはじめ、各種研修・実習を積極的に受け入れることとしている。当館の博物館施設としてのあり方ばかりではなく、埋蔵文化財センターとしての機能について、実際の発掘現場調査の体験も織り交ぜ、資料の調査・整理・保管・展示活用という一連の流れを体験できるメニューを作成している。

## 【講師派遣】

## 1 出前講座

開催日時	内容	講師	依頼団体(会場)	参加者
平成18年6月10日 10:00～12:00	勾玉づくり	鷹黄あゆみ 古田里和	桜城小学校6学年 (桜城小学校被覆室)	105人
平成18年10月11日 13:30～15:30	もりおかの遺跡 (盛岡城跡と城下町)	神原雄一郎	盛岡老人大学仁王分校 (仁王老人センター)	33人
平成18年11月21日 10:00～11:30	もりおかの遺跡 (川目地区の遺跡めぐり)	神原雄一郎	盛岡区救済協河南支部 (川目地区現地)	18人
平成19年1月14日 13:30～15:00	もりおかの遺跡 (翠石川以南地区)	今野公顕	西太田第一自治会 (西太田第一公民館)	27人

この制度は、盛岡市が市政に対する理解を深め、市民参加のまちづくりを推進するため職員を講師として無料派遣するもので、当館では4件の依頼を受けて実施した。市内の各地域の歴史講座や土器や勾玉づくりなどのメニューを用意している。特に学校から体験学習室で収容不可能な人数の要請があった場合に、学校に向いて体験学習の機会を提供している。

## 2 その他

開催日時	内容	講師	依頼団体(会場)	参加者
平成18年 7月27日	盛岡市教育研究会中学校 社会科部会第3回研修会	今野公顕	盛岡市教育研究会 (遺跡の学び館)	39人
平成18年 8月 4日	白然石での勾玉製作指導	神原雄一郎	盛岡市西部公民館(同館)	20人
平成18年 8月 4日	盛岡市教育研究所 第1回公開講座	室野秀文 今野公顕	盛岡市教育研究所 (遺跡の学び館)	21人
平成18年 9月 2日	わくわくチャレンジ	佐々木亮二	手代森小学校(同校)	約100人
平成18年 9月23日	石器づくり・講話	神原雄一郎	田野畑村教育委員会 (田野畑村アズィホール)	約50人
平成18年 9月30日	市中央公民館歴史講座	室野秀文	盛岡市中央公民館(同館)	25人
平成18年10月16日～10月19日	上之國跡跡縄文調査指導	室野秀文	上ノ國町教育委員会(現地)	—
平成18年11月 3日	石器製作指導	神原雄一郎	宮古市教育委員会 (宮古市崎山貝塚)	約50人
平成19年 2月10日	上之國歴史講座	室野秀文	上ノ國町教育委員会 (上ノ國町総合福祉センター)	53人
平成19年 2月24日	西部公民館縄文講座	神原雄一郎	盛岡市西部公民館(同館)	6人
	生涯学習研究会学習会	室野秀文	生涯学習研究会(盛岡市西部公民館)	25人

## 【研修派遣】

期間	内容	派遣職員	会場
平成18年10月12日 ～10月13日	全同公立埋蔵文化財センター連絡協議会 北海道・東北ブロック研修会		菊地幸裕文化財主査 青森県埋蔵文化財調査センター、 ほか
平成19年 1月10日～19日	埋蔵文化財担当者専門研修 「報告書作成課程」	鈴木賢治文化財調査員	独立行政法人文化財研究所 (奈良文化財研究所)
平成19年 2月 7日～9日	文化財等取り扱い講習会	鈴木賢治文化財調査員	岩手県立博物館

**【蔵書】**

形態	分野	寄附冊数	購入冊数	計	(冊)
一般図書	調査報告書	10,344	1	10,345	
	考古学	84	50	134	
	歴史学	44	6	50	
	民俗学	1	2	3	伝統芸能
	美術工芸	2	21	23	建築物
	自然科学	0	1	1	動植物
	文化財保護	3	2	5	保存計画・保存修復・復元・一般文化財
その他	3	1	4	事典	
資料集	805	7	812	図録・解説書・博物館パンフ・資料日録・発表要旨・地図	
全集	150	187	337	3冊以上のもの	
論文集	27	1	28	論文集	
通史	203	0	203	市町村史	
逐次刊行物	1,792	667	2,459	雑誌・年報・紀要・研究報告	
計	13,158	946	14,104		

埋蔵文化財センターとして、全国各地の遺跡発掘調査報告書や遺跡関係書籍、および歴史関連書籍や論文集、一般刊行物、各種パンフレットなどの保管収集公開をしている。これらの蔵書は、図書室の開架棚にあり、来館者が自由に閲覧できるものと、図書資料室に収蔵のうえ受付に申請して閲覧できるものがある。

**【収蔵資料管理システム】**

当館内に展示・収蔵されている出土遺物・記録類について、その情報の管理を一元化し、検索・集計・編集・出力等の業務支援が可能なシステムを構築するため、17年度から国庫補助事業（埋蔵文化財保存活用整備事業）を活用して事業を進めているもので、本年度は、遺跡等案内図HTMLファイルの作成やクライアントPC及び来館者用タッチパネルディスプレイ等の機器を増設し、ネットワーク接続等の設定調整を行った。

**【常設展示室の更新・整備】**

旧玉山村（現盛岡市玉山区）との合併に伴い、追加の必要が生じた玉山区域内の遺跡分布マップパネルを人工衛星画像を元に作製展示したほか、遺跡ディスプレイ内の解説グラフィックの更新及び人気のあたる土器パズルの増設などを実施した。

**【遺跡の学び館サポーターズクラブ】**

当館の体験学習など行事運営を支援・協力してくださるボランティアの団体であるサポーターズクラブが正式発足した。当館行事の支援活動を中心に活動していただいたほか、自主活動として会員研修旅行（研修先 仙台市：地底の森ミュージアム・縄文の森広場 期日：平成18年9月30日）の開催、サポーターズクラブ通信の発行などを行った。クラブの基盤整備として、クラブ員の募集を行い、新たに2名が入会されたものの、計10人余の少ない人数であることから、今後も継続した募集活動が必要であると同時に、限定的な活動内容の見直しなど、今後の課題が残されている。



テーマ展「鶯地区の遺跡」



第4回企画展「玉山の遺跡」移動展



現地説明会「南仙北遺跡第38次調査」



現地説明会「志波城跡第100次調査」



体験学習会「城下町歴史ウォーキング」



体験学習会「縄文キャンプ」



体験学習会「武士の兵糧を味わおう」出来上がり



セミナー風景

学芸事業 写真図版1



### 3 埋蔵文化財発掘調査

平成18年度は20件の発掘調査を実施した。史跡の学術調査が1件、公共事業に伴う調査のうち、盛岡南新都市開発整備事業（盛岡開発）による調査が5件、市道建設や公共下水道工事、学校建築等に伴う調査が5件、計10件を実施したほか、宅地造成等民間開発による調査が5件、個人住宅建築に伴う調査が4件となった。

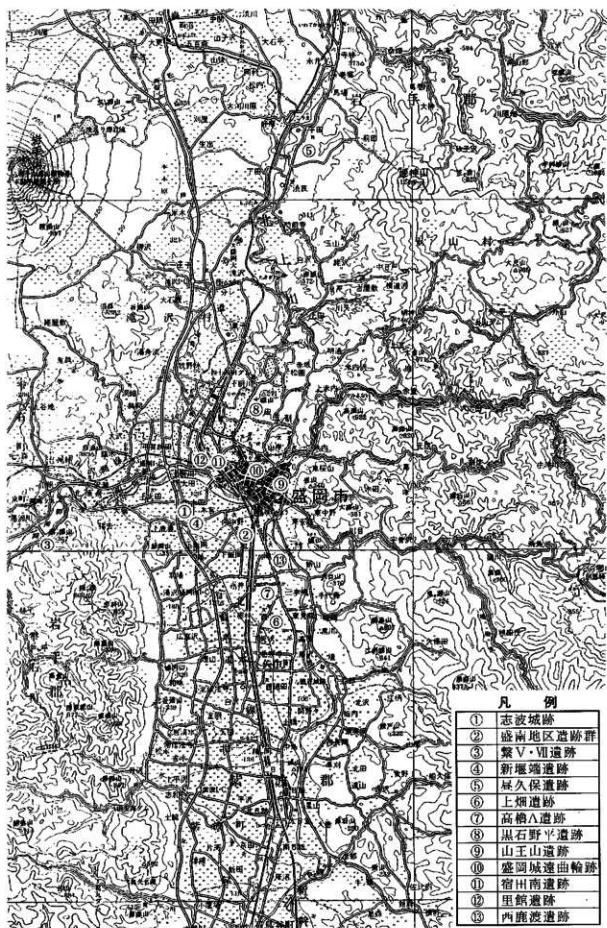
主な成果としては、まず縄文時代では、昼久保V遺跡（第2次調査）から早期と中期の竪穴住居跡や陥し穴状土坑・土坑、山王山遺跡（第11次調査）からは中期の土坑や早期の遺物包含層が見つかった。古代では、西鹿渡遺跡（第20次調査）・高橋A遺跡（第3次調査）・上畑遺跡（第9次調査）から奈良や平安時代の集落跡が見つまっているほか、盛岡開発地区の南仙北遺跡（第38次調査）からは、古代の集落跡のほか、近世の道路跡が発見されている。また、学術調査による史跡志波城跡（第100次調査）では、南東官衙域の調査で東西に1間の甬をもつ掘立柱建物跡が検出された。

中世では、個人住宅の駐車場建設に伴う宿田南遺跡の第9次調査において、経石を納めた経塚が発見され、果内でも出土例が少ない、両面に隙間なく書写された多字一石経が出土している。

近世では、寺院改築による盛岡城道曲輪跡（第13次調査）から、堀跡のほか、堀の埋土中から盛岡南部氏の御紋である向鶴を施した燻瓦や赤瓦、窯道具や陶器の未成品などがみつまっている。

表2 平成18年度発掘調査（本調査）一覧

遺跡名	回数	所在地	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	概要	備考
1 宿田南遺跡	9	北夕顔権38	駐車場建設	4/17~6/21	128	中世経塚・近世燻瓦 ほか	II19継続調査予定
2 甲船遺跡	52	北天呂寺142-18ほか	個人住宅兼共同住宅建築	6/5~6/13	613	中世城館・堀	
3 西鹿渡遺跡	20	二本柳2-39	個人住宅進入路建設	7/31~8/11	320	奈良期集落	
4 志波城跡	99	下太田林崎22	下水道工事	7/24~10/24	36	志波城外大溝 ほか	
5 上畑遺跡	9	西見積11-28-1	共同住宅建築	4/17~6/1	556	奈良~平安期集落	
6 高橋A遺跡	3	永井24-34ほか	宅地造成	6/1~8/11	3,703	奈良期集落	
7 黒石野平遺跡	7	緑ヶ丘丁目2-1	宅地造成	11/6~11/22	1,812	縄文中期貯蔵跡	
8 山王山遺跡	11	山王町56-1	宅地造成	11/6~12/15	1,400	縄文早期包含層 中層貯蔵穴群	
9 盛岡城道曲輪跡	13	本町道二丁目6-24	寺院改築	11/1~12/15	2,114	近世堀 農業資料	
10 繁V遺跡	31	繁字館市地内	市道建設	9/11~10/16	110	縄文中期集落	
11 繁V遺跡	32	繁字館市6-20	車庫建築	9/1~9/12	25	縄文中期集落	
12 繁V遺跡	33	繁字館市114-1ほか	小学校改築	10/2~10/31	2,144	縄文中期集落	
13 昼久保V遺跡	2	玉山区芋田地内	国道バイパス建設	7/11~10/18	7,615	縄文早期、中期集落	
14 南仙北遺跡	38	向中野字鶴子25-1ほか	上地区画整理	4/17~7/21	2,890	平安期集落 近世街道	
15 南仙北遺跡	39	向中野字鶴子25-1ほか	上地区画整理	11/28~12/6	2,275	近世溝	
16 稲荷遺跡	12	本宮字稲荷地内	上地区画整理	6/12~6/13	626	遺構・遺物なし	
17 宮沢遺跡	12	本宮字宮沢地内	上地区画整理	8/7~8/29	950	平安期溝	
18 小幡遺跡	22	本宮字小幡地内	上地区画整理	8/21~8/29	182	近世建物 土坑	
19 新堀遺跡	9	下太田字新堀2-2	下水道工事	8/7~10/13	180	平安期大溝	
20 志波城跡	100	中太田方八町地内	内容確認	9/13~11/24	1,291	南東官衙建物	



第2図 平成18年度調査遺跡位置図 (S=1:200,000)

## ○ 史跡整備関連

### (1) 史跡志波城跡第100次調査

志波城跡は、延暦22(803)年に坂上田村麻呂によって造営された陸奥国最北端の城跡である。昭和59年に史跡指定を受け、その後史跡地内には外郭築地塀や外郭南門のほか、政庁南門や東西門そして両側に続く政庁築地塀や官衙棟などを復元・公開しており、史跡の整備とさまざまな活用を行っている。第100次調査は政庁の南東官衙城に調査区を設定し、当該地の内容確認を目的に調査を実施した。その結果、掘立柱建物跡1棟と竪穴住居跡1棟、小ピット群が検出された。掘立柱建物跡(SB255)の構造と規模は次のとおりである。

桁行5間、梁行2間の身舎東西2面に桁行5間分の廂が付く。桁行の総長12m(40尺)、柱間が2.4m(8尺)等間、梁行の総長5.1m(17尺)、柱間が2.55m(8.5尺)等間をはかる。廂の柱間は東西桁行柱筋から2.1m(7尺)とみられる。すべての掘方には抜取穴が確認され、検出面からは須恵器杯・あかやき土器杯(底部に判読不明な墨痕のある土器片含む)のほか、鉄製品・鉄滓・土製品(輪羽口)・白色粘土塊などが出土した。

竪穴住居跡は調査区南西隅に東辺の一部のみ検出された。規模は一辺約6mと考えられ、かまどは東向きに2時期ある可能性がある。検出面からはあかやき土器の小破片が出土した。なお、本調査の詳細な成果については『志波城跡—平成17・18年度発掘調査概報—』にて報告済みである。(今野公顕)



第3図 志波城跡第100次調査区SB255掘立柱建物跡・小ピット群

○ 公共事業関連

(2) 盛南地区遺跡群 一南仙北遺跡第38～39次調査 稲荷遺跡第12次調査  
宮沢遺跡第12次調査 小幡遺跡第22次調査一

盛南新都市開発整備事業(盛南開発)にともなう発掘調査で、4遺跡で5件実施した。当事業区域内の発掘調査は平成5年度から始まっており、事業の進捗にあわせて毎年数件の調査が行われてきた。

南仙北遺跡は、これまでの調査で、奈良・平安時代の集落跡を主体とした遺構が見つかっている。第38次調査においては、平安時代の竪穴住居跡が9棟、土坑4基、平安時代以降の大溝跡1条、江戸時代以降の溝跡13条が見つかった。出土遺物は平安時代の土器のほか、鉄製の刀子・釘・紡錘車などが出土した。大溝跡は集落の区画などの目的で築造されたと考えられる。江戸時代の溝2条については、南北にほぼ平行に走るもので、道路側溝の可能性がある。第39次調査では、溝跡が1条検出された。第38次調査西側で確認された溝跡とのつながりが考えられるが、詳細については、今後の検討を踏まえて判断したい。

稲荷遺跡(第12次調査)は、溝跡の検出が予想されたが、申請範囲外に伸びていた模様で、遺構及び遺物は検出されなかった。宮沢遺跡(第12次調査)からは、平安時代の溝跡が2条検出された。溝跡の運上中には多量の十和田a火山灰(915年噴降下)と考えられる灰白色火山灰(粉状バミス)がブロック状に含まれており、さらにあかやき土器の破片が10数点出土したことから平安時代のもと考えられる。小幡遺跡(第22次調査)からは近世以降の掘立柱建物跡が1棟のほか、同じく近世以降の土坑1基、溝跡1条、小柱穴が10数点検出された。掘立柱建物跡は過年度の調査区から続くものと考えられ、これまでの調査成果から、近世以降の曲がり家状の建物である。遺物はあかやき土器片が数点のほか、近代以降の陶磁器、ガラス製品が出土した。

(今野公顕・鈴木賢治)

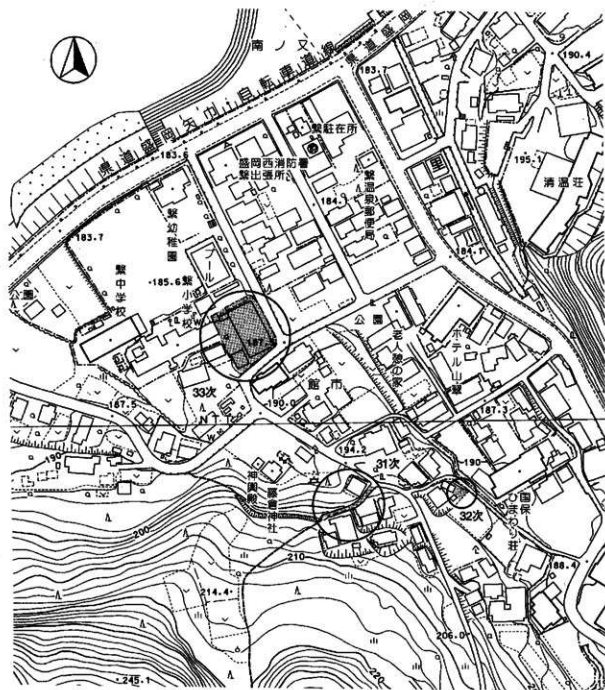
表3 平成18年度盛南開発地区発掘調査一覧

遺跡名	回数	調査原因	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	検出遺構・時期	出土品
南仙北遺跡	38	盛南開発	2,890	4/17～7/21	平安時代竪穴住居跡9棟 土坑4基 平安時代以降 大溝跡1条 江戸時代以降 溝跡13条	土師器 須恵器 あかやき土器 土師 鉄製品(紡錘車・刀子・釘) かわらけ片 陶磁器 ほか
南仙北遺跡	39	盛南開発	2,275	11/28～12/6	溝跡1条	なし
稲荷遺跡	12	盛南開発	626	6/12～6/13	なし	なし
宮沢遺跡	12	盛南開発	950	8/7～8/29	平安時代溝跡2条	あかやき土器片
小幡遺跡	22	盛南開発	182	8/21～8/29	近世以降掘立柱建物跡1棟 土坑1基溝跡1条 小柱穴10数口	あかやき土器片 陶磁器 ガラス製品

○ 公共工事関連

(3)-1 繁VII遺跡第31次調査

舗装道路敷設工事にもなる事前調査として実施した。調査区は丘陵斜面に位置しており、高低差は約6mを測る。調査区西側(斜面上部)にフラスコ型土坑が集中し、東側(斜面下部)に堅穴住居が確認された。遺構はすべて縄文時代中期のもので、堅穴住居跡が10棟、フラスコ型土坑が6基、粘土採掘跡が1基検出された。遺物は縄文土器・石器がコンテナ6箱ほど出土している。近隣の繁V遺跡では、これまでの調査で、礫石川を臨む丘陵の比較的平坦な面に集落が形成されていることが確認されているが、今回の調査によって、背後の斜面部にあたる当繁VII遺跡にも集落が広がることがわかった。(佐々木亮二・松川光海)



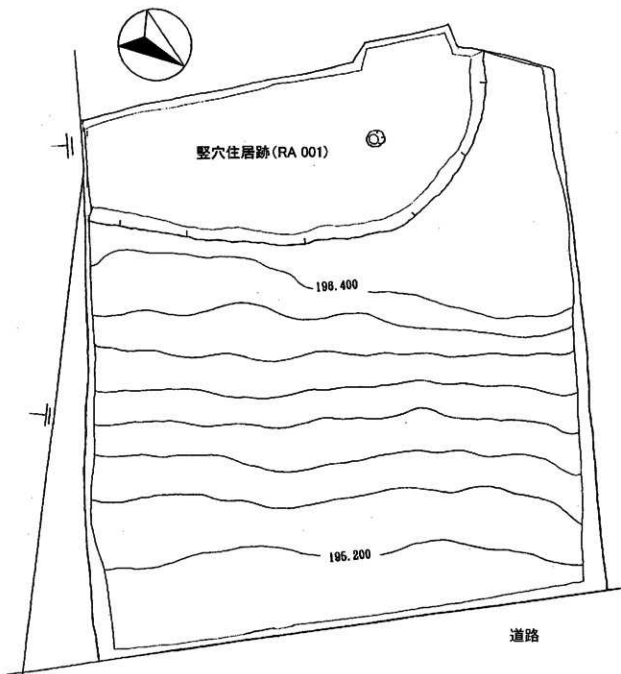
第4図 繁遺跡(第31~33次)調査区位置図(S=1:2,500)



○ 車庫建設

(4) 繫V遺跡第32次調査

個人住宅の車庫建築にともない調査を実施した。調査区は繫V遺跡が立地する段丘縁辺に位置しており、北半分は斜面になっている。南側平坦面に縄文時代中期の竪穴住居跡1棟が検出された。住居跡の南半分は申請地外にのびており、遺物は縄文土器と石器が少量出土した。(佐々木亮二・松川光海)



第5図 繫V遺跡第32次調査区全体図 (S=1:50)

### (5) 国土交通省関連

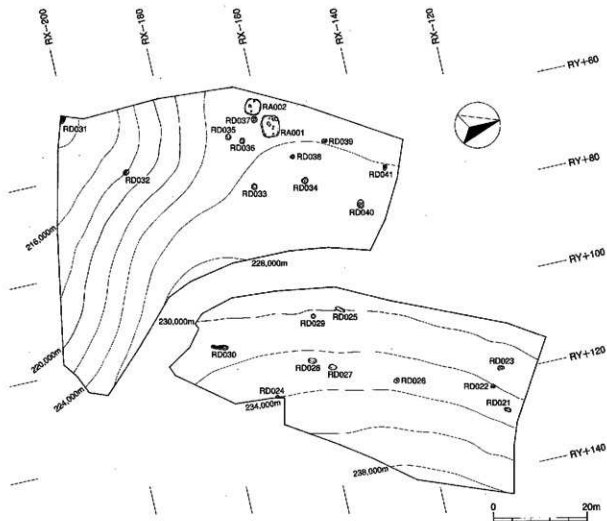
#### 昼久保V遺跡第2次調査

本調査は、国道4号線渋民バイパス建設に伴い、平成17年度に旧玉山村教育委員会が国土交通省から埋蔵文化財発掘調査業務の委託を受けて実施した。本年度は17年度に行った第1次調査区の南側隣接地を対象に調査を実施したものである。第1次調査においては、縄文時代の陥し穴状土坑が発見されており、シカなどを捕獲した狩猟場であったと考えられる遺跡である。今次調査では、縄文時代の竪穴住居跡が2棟、土坑21基のほか、縄文時代早期から晩期の遺物包含層がみつかった。

竪穴住居跡のRA001とRA002は隣接して検出された。いずれも不整の隅丸方形を呈する。RA001は地床炉、RA002は石囲炉を有している。出土遺物は、RA001の覆土上層において縄文土器片が数点、RA002の床面からは縄文時代中期と考えられる深鉢がまとまって確認された。

土坑は円形または楕円形を呈するが、規模は一様ではない。出土遺物はほとんど確認されていない。土層の堆積状況からフラスコ状土坑と推測されるものが数基認められ、これについては陥し穴または貯蔵穴と考えられる。調査区南端部からは遺物包含層が確認された。縄文時代早期から晩期の土器片、石器、剥片等が検出された。概観の限り、いわゆる土器捨て場のような人為的に形成されたものではなく、尾根上などからの流れ込みによって自然形成された包含層と考えられる。

なお、本調査の詳細な成果については『昼久保V遺跡』(H20.3刊)にて報告済みである。(菊地幸裕)



第6図 昼久保V遺跡第2次調査区全体図



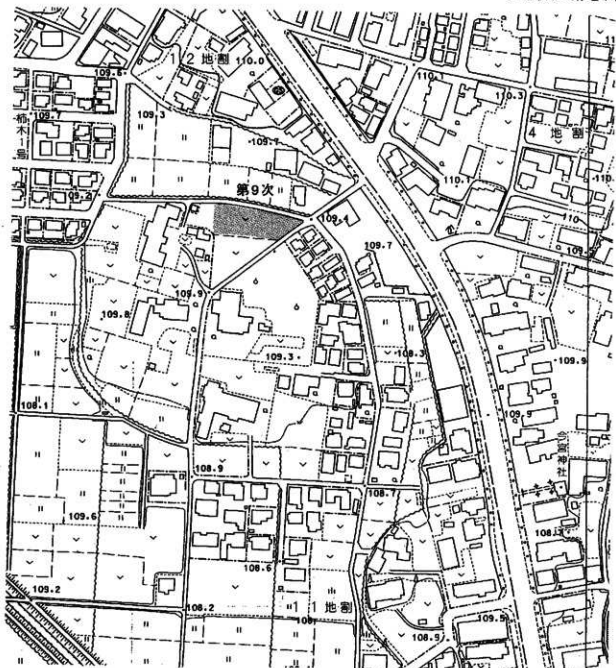
◎ 民間開発関連

(6) 上畑遺跡第9次調査

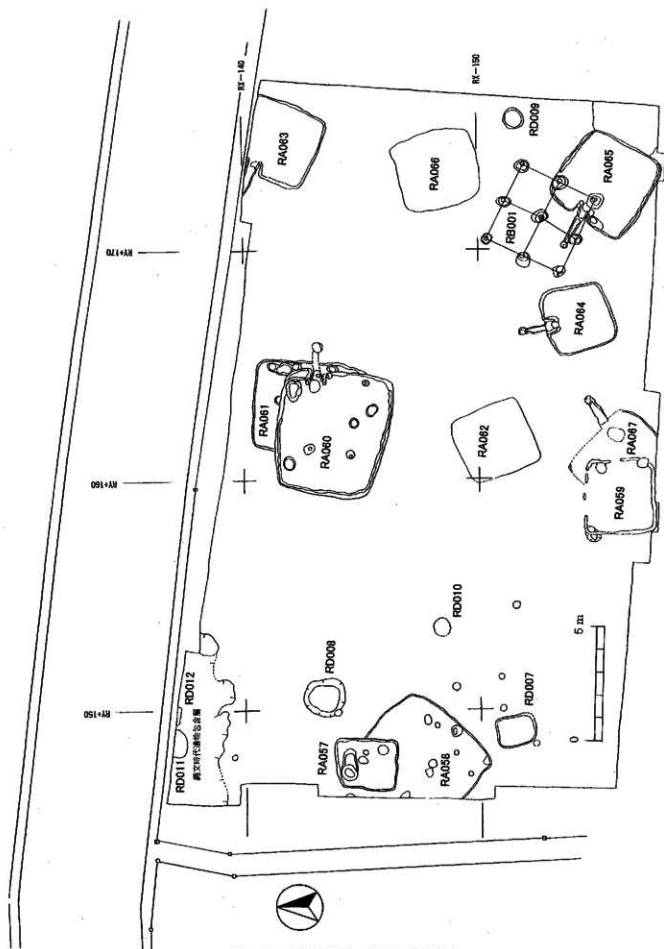
本遺跡のこれまでの調査では平安時代の集落跡がみつがっている。第9次調査は共同住宅建設にともなう事前調査として実施を行った。今次調査区は遺跡中央部の北よりに位置し、奈良・平安時代の集落跡が確認されている。堅穴住居跡は、奈良時代が6棟、平安時代が5棟の計11棟が検出され、そのほか当遺跡として今回初めて掘立柱建物跡(RB001)1棟が確認されている。この建物跡は柱の配置などから高床式倉庫跡と考えられる。このほか、縄文時代晩期の遺物包含層1箇所が見つかり、晩期の土器が出土していることから、この時代にも人々の生活が営まれていたことが確認された。

遺物は縄文晩期の土器、土師器、あかやき土器、須恵器、紡錘車、鉄製品など、コンテナ9箱程出土した。

(室野秀文・菊地幸裕)



第7図 上畑遺跡第9次調査区位置図 (S=1:2,500)



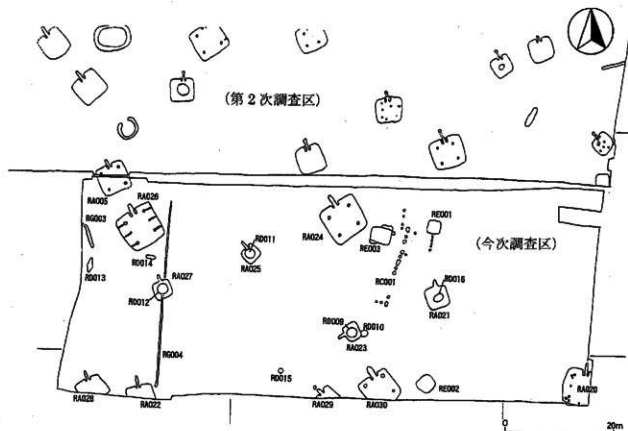
第8図 上畑遺跡第9次調査区全体図

(7) 高橋A遺跡第3次調査

本遺跡はJR東北本線岩手坂岡駅から800mほど東に立地する。遺跡の範囲はおおね東西200m、南北100mほどである。本遺跡周辺の平野部は、雫石川と北上川の流路の転換によって形成された河岸段丘上に立地し、奈良・平安時代の遺跡が多く分布する。周辺には上知遺跡や百目木遺跡など、奈良・平安時代の集落跡が確認されており、本調査区周辺は公園や宅地となっている。平成16年に実施した第2次調査に引き続き、民間開発による宅地造成にともなって調査を実施したもので、第2次調査区に隣接する南側を対象に行った。平成16年の調査(第2次調査)では、8世紀後半の竪穴住居跡が18棟、9世紀後半の竪穴住居跡が1棟検出されており、突出した大型のものではなく、小・中規模のものが多く見られた。また、床面から炭化材が検出された住居跡が10棟を数えている。そのほかの遺構としては、陥し穴状土坑1基、古代以降の土坑7基、溝跡1条のほか、古代の円形周溝が2条確認されている。遺物は、土師器、(コシテナ20箱)、土製紡錘車13点、鉄製釣針1点、鉄鏃3点が出土している。なお、この第2次調査の詳細については、平成16年度の当館の顕報にて報告済みである。

今次調査は、新たに宅地造成が計画されたことにより、平成18年4月4日から5日にかけて、盛岡市教育委員会文化課による試掘調査を実施した結果、竪穴住居跡等の遺構が確認されたのを受けて、本調査を実施したものである。

なお、7月22日には平成16年度の第2次調査に引き続き、現地説明会を開催し、地域の方々に調査でわかった遺跡の内容を紹介した。



第9図 高橋A遺跡第3次調査区全体図

## □ 調査内容

検出遺構	奈良時代	竪穴住居跡 11棟 竪穴 1基 土坑 8基
		※竪穴住居跡のうち、1棟は第2次調査で北半部を調査済
	江戸時代	掘立柱列・柱列 1群 竪穴 2基
	時期不詳	溝跡 2条
出土遺物	奈良時代	土師器 土製紡錘車 鉄製品等
	江戸時代	陶磁器片 3点 (遺物コンテナ 10箱)

### 竪穴住居跡

RA05、20、24、26、30の5棟の竪穴住居跡は1辺が5～7mの方形の大型のもので、4～6本の支柱穴をもつものである。北西側にしっかりしたカマドがあり、壁の下には壁の崩落を防止するために板や杭を立てた痕跡(周溝)がある。土器も比較的多く出土している。RA05とRA30の2棟は焼失している。

RA21、22～23、25、27～29の7棟は1辺の長さが3～4mの小型から中型のもので、屋根を支える柱穴は確認されず、垂木のみで屋根を支えていたものと思われる。北西側や西側にやや規模の小さなカマドをもっている。土器の出土は大型の竪穴住居に比較して少なめである。竪穴住居の使用が終わってまもなく、竪穴中央に土坑が掘られた例が4棟(21、23、25、27)確認されているが、土坑を掘り込んだ目的は不明である。また、カマドが破壊されている例(23、27)もある。

### 土坑

RD21、23、25、27はカマドも柱穴もない土坑で、いずれも竪穴住居使用後、まもなく同住居の中央部に掘り込まれているものである。住居ではなく、納屋や作業場、倉庫などの可能性があると考えられる。

### 出土遺物

土師器(坏・甕)と土製紡錘車、鉄製品等が出土している。坏は内面黒色処理されており、8世紀後半のものである。こわれた甕をカマドの構築に再利用している例も見られる。

### まとめ

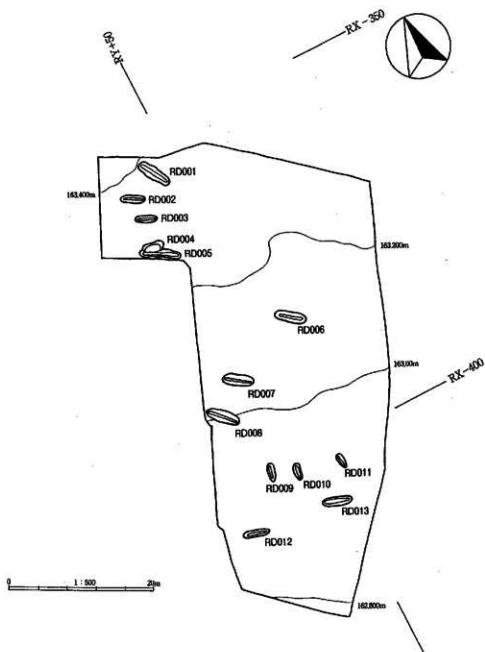
本遺跡はこれまでの調査により、奈良時代を中心に30棟の竪穴住居跡が確認され、大規模な集落跡であることが判明した。当時の集落は周辺部にさらに拡がりをもつものと考えられる。竪穴住居跡は1辺3mの小型のものから1辺7mの大型のものがあり、住居の大きさや構造の違い、土器の出土量の差などから、大型の竪穴住居には村の首長や大家族の家長が、小型の竪穴住居には分家や一般民の住居と考えられる。

(憲野秀文・菊地幸裕・松川光海)

(8) 黒石野平遺跡第7次調査

民間による宅地造成にともなう事前調査として実施した。木遺跡は北上川東岸に発達する段丘上に立地しており、段丘は北から南にかけて緩やかに傾斜する。検出遺構は縄文時代の陥し穴状土坑が13基で、遺物として縄文時代の土器片2点と石鏃1点が出土した。陥し穴状土坑は調査区西側から検出されたことから、当時は北上川に近い段丘縁辺に狩猟場が設けられたと考えられる。2～3基のまとまりで配置されているが、時期を示す遺物は発見されていない。これまでの市内で発見された例から、縄文時代中期から晩期にかけてのものと考えられる。

(神原雄一郎)

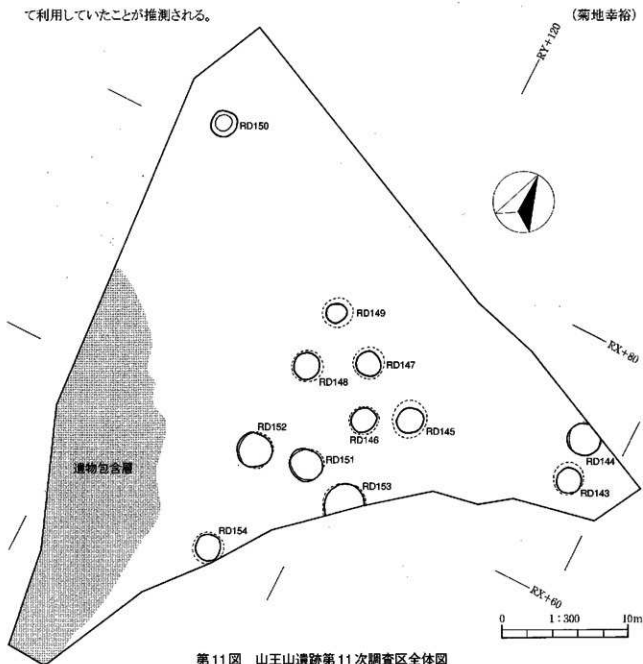


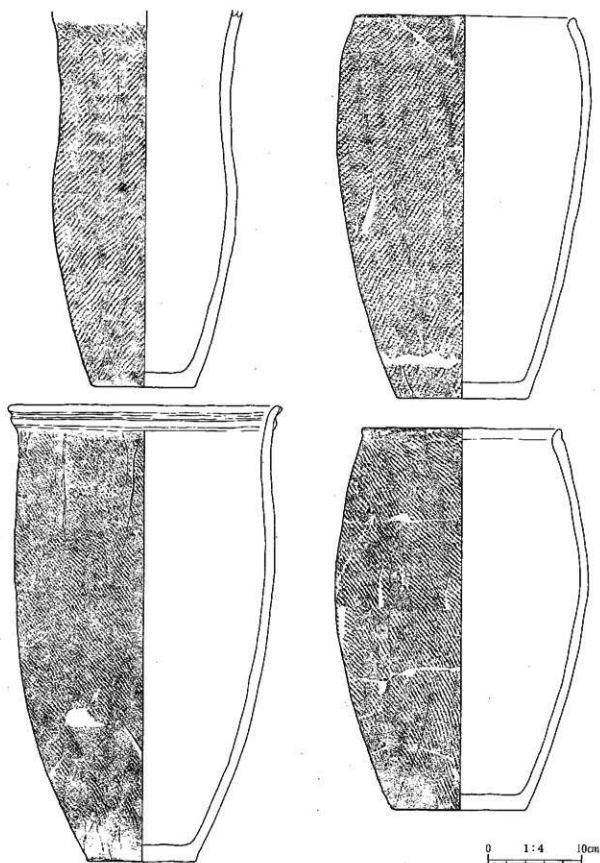
第10図 黒石野平遺跡第7次調査区全体図

(9) <sup>山王山</sup>山王山遺跡第11次調査

本遺跡は市内山王町にあり、国道4号線から盛岡山王美術館近くまでの広がりをもっている。これまでの調査から、縄文時代中期の竪穴住居跡や十坑(貯蔵穴)群などが多数見つかっている。今次調査は民間業者による宅地造成工事にもなう事前調査として実施した。調査の結果、縄文時代中期の土坑が12基と縄文時代早期以降の遺物包含層1箇所が検出され、遺物は縄文時代の土器、石器(石鏃・石匙など)等コンテナ4箱ほど出土した。検出された十坑のうち、11基はフラスコ状を呈し、規模はおおむね最大径2.5m、最大深1.5~2m程度である。遺物の縄文土器の大半は破片であるが、調査区北東部の1基(RD144)からは完形に近い5個体の深鉢形土器が出土した。遺物包含層は調査区南東部で確認された。南北約30m、東西約10mの広がりをもち、縄文時代の土器片や石器、剥片等が出土している。

今回、竪穴住居跡は検出されていないが、今次調査区の西方にある盛岡地方気象台建設時の調査では、ほぼ同時代の竪穴住居跡が多数見つかっており、当時の人々が食料を保管する空間と居住スペースを分けて利用していたことが推測される。



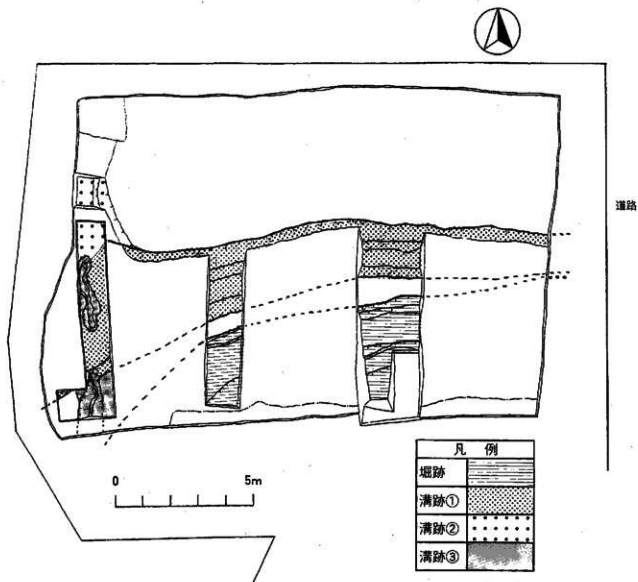


第12圖 山王山遺跡第11次調査 RD144出土土器

(10) <sup>きだて</sup>里館遺跡第52次調査

本遺跡の位置する野川地区は盛岡市の北西部にあり、東を北上川、南を雫石川によって面される。地形は北部の火山灰台地(洪積段丘)と南部の砂礫段丘(沖積段丘)に大きく二分され、里館遺跡は沖積段丘上に立地する。沖積段丘は高位と低位にわかれ、高位は火山灰砂台地(洪積段丘)の南から西に隣接して分布し、低位面は主に雫石川の氾濫原で、砂礫層が比較的上部で確認される。本遺跡はこの高位沖積面の南端に立地している。里館遺跡付近で高位面の南北幅は約300m、現雫石川まで500mほどの距離である(本遺跡の範囲と位置については、図版第16図に掲載)。

これまでの調査では中世の堀跡や柵列、溝跡などが発見されている。今次調査は民間の共同住宅建築にともなって事前調査を実施したもので、調査区を東西に横断する堀跡と溝跡が各1条と南北に縦断する溝跡1条、さらに調査区内北から西へ屈曲する溝跡が1条検出された。陶磁器(青磁)1片が出土しており、これまでの調査の結果から15~16世紀の遺構と考えられる。(佐々木亮二・松川光海)



第13図 里館遺跡第52次調査区全体図



盛岡城遠曲輪跡の概要  
(11) 盛岡城遠曲輪跡第13次調査

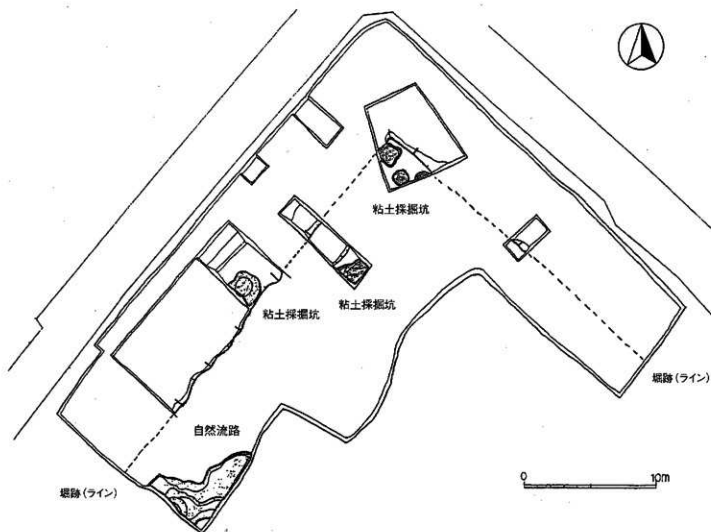
寺院の本堂と庫裏の改築工事にもない、事前調査を行った。遠曲輪は史跡盛岡城の最も外側のエリアにあたる遺構である。



第14図 盛岡城遠曲輪跡第13次調査区位置図

調査の結果、盛岡城遠曲輪の外堀1条と堀の埋土中から盛岡南部氏の御紋である双鶴文を施した燻(いぶし)瓦や赤瓦、窯道具や陶器の未成品などが見つかった。調査区は江戸時代に「花屋丁惣門」と呼ばれ、城下への入り口のひとつであった。花屋丁惣門近くには宝永年間(1704～)から盛岡藩の御用瓦窯である「寺町窯」があったと天保4年(1833)に著された『盛岡砂子』に記されていることから、今回出土した遺物は「寺町窯」が近くに存在していたことを示すものとして貴重な資料と考えられる。

(佐々木亮二・松川光海)



第15図 盛岡城遠曲輪跡第13次調査区全体図

## ◎ 個人住宅建築等

### (12) 宿田南遺跡第9次調査

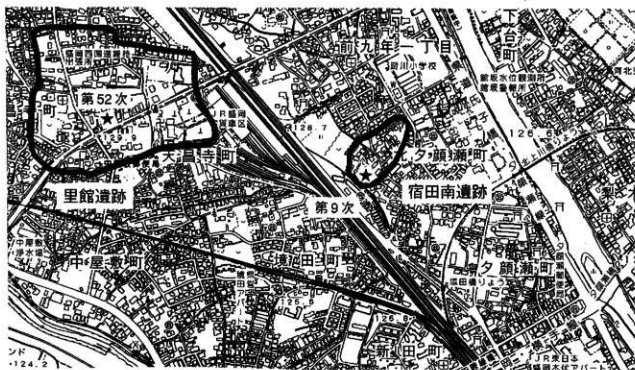
本遺跡は、盛岡市の中心部より北西へ約3kmの市内北夕顔瀬地内に位置する。現況は宅地で周辺部よりも一段高くなっており、比高差は約4～5mである。遺跡の範囲は東西・南北ともに約150mと推定され、標高は132～133mをはかる。滝沢台地の南東部は北上川によって南へ凸状に張り出しており、踏葛川、木賊川、菓子川などで開折され、幾筋もの埋没谷が入りこんでいる。宿田南遺跡が立地する段丘は本来、滝沢台地南縁の一部であったものが河道によって侵食され残丘になったものと考えられる。周辺には宿田・館坂・前九年遺跡など縄文時代早期を中心とした遺跡や中世の遺構が多数確認されている里館遺跡が分布している。

第9次調査は個人住宅の車庫建築にともない実施した。発見された遺構は碇石を収めた経塚1基のほか、江戸時代の上坑墓2基、時期不明の盛土遺構と溝跡が見つかった。経塚から出土した碇石は一字一石経と多字一石経の2種類が認められた。一字一石経は片面に書写されているもので、その文字の大半は梵字であった。多字一石経は両面に隙間なく経典が書写されており、県内でも出土例が少ないものである。全国の類例から鎌倉時代のものが多く、この経塚もその時期につくられた可能性がある。一緒に発見された盛土遺構は、経塚によって掘り込まれていたことを確認できたものの、経塚とともにつくられたものかは明らかにできなかった。盛土上面や溝跡から縄文土器や黒曜石製のラウンドスクレーパーが出土していることから、周溝をともなう墳丘墓の可能性もある。

江戸時代の土坑墓は重複したかたちで確認された。計20基のうち17基を精査し、16体の人骨が出土している。人骨と一緒に出土した脚磁器から、江戸時代の後半の時期に埋葬された墓群であることがわかった。屋敷の敷地内につくられた屋敷墓と考えられる。

なお、本調査は次年度も継続して実施することとなった。

(佐々木亮二・松川光海)



第16図 宿田南遺跡第9次・里館遺跡第52次調査区位置図 (S=1:10,000)

### (13) 西鹿渡遺跡第20次調査

本遺跡が所在する三本柳地区は、盛岡市の南部にあり、南北に走る北上川によって形成された西岸の段丘面に立地している。遺跡の南方には古代の集落跡である「百目木遺跡」が存在し、市内でも有数な古代集落跡が密集する地域として知られている。旧河道との比高差は約2～2.5mで、近年宅地開発等によって住宅地が増えているが、昭和20年代の初め頃から実施された大規模な農地の天地返しによって、遺跡の一部が影響を受けていることが確認されている。

本遺跡のこれまでの調査から奈良・平安時代の集落跡が見つかったが、今次調査においても奈良時代の竪穴住居跡が2棟と同期の竪穴状遺構が1棟検出された。RA041の竪穴住居跡は1辺5m以上を計る。西向きにカマドが構築されており、カマドの煙道や基底部(そで)は地山をくり抜いてつくられている。また床面からは、周辺地域からの出土例がなく、須恵器の模倣品とみられる土師器の長頸瓶が出土している。この地域の住民が東北南部の律令体制下の住民との交流を示唆するものとして注目される。

RE01の竪穴状遺構は、約2m×3mのカマドのない小型のもので、床面中央に地床炉が構築されていた。この遺構は、RA041の竪穴住居跡のカマド煙出し部によってきられていた。なお、調査区の東側は天地返しによって攪乱を受けていることが確認された。

出土遺物は、土師器の杯・甕・長頸瓶、石製品(軽石・砥石)でコンテナ3箱ほどである。

なお、本調査の詳細な成果については『盛岡市内遺跡群 平成18・19年度発掘調査報告一』に報告済みである。(今野公顕・鈴木賢治)

### (14) 史跡志波城跡第99次調査

下水道管設置にともなう事前調査を行った。位置は志波城跡郭内北東部にあたり、調査範囲は全長60m×0.6m、表土直下0.4～0.8mほどの褐色シルト層、褐色砂礫層にて行った。本調査区の西端で志波城跡外郭東辺外大溝跡(SD030)、調査区東側に近世以降の溝跡、土坑が検出された。表土中からは、破壊したあかやき土器の小破片が数点出土している。

SD030外大溝跡は、工事掘削深度(約0.6m)より0.4mほど下までの埋土を精査したが、底面は確認できず、底面はより下方にあると考えられる。埋土中からの出土遺物はなかった。これまでの付近の調査例と同様、遺構の様相に大きな相違はなく、砂礫層を掘り込んで構築されていることが確認された。壁面近くの崩壊土中には、径5～20cmほどの礫が転がりこんでおり、溝の外側に土墨状に盛土されていた部分からの転落流入の可能性はある。また部分的ではあるが、埋土中位に砂層が確認された。志波城跡廃絶の原因となった洪水等によるものなのかは不明である。

なお、本調査の詳細な成果については『志波城跡—平成17・18年度発掘調査概報—』に報告済みである。

(今野公顕)



史跡志波城跡第100次調査 SB255 掘立柱建物跡



南仙北遺跡第38次調査



南仙北遺跡第38次調査



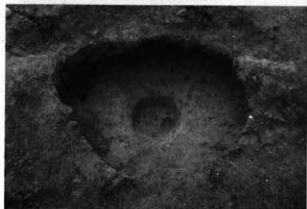
南仙北遺跡第38次調査 (鉄製紡錘車出土状況)



舞VII遺跡第31次調査



舞V遺跡第33次調査



舞V遺跡第33次調査 (土坑)



曼久保V遺跡第2次調査

写真図版2



豊久保V遺跡第2次調査 (RA002)



豊久保V遺跡第2次調査 (RA002 石囲炉)



豊久保V遺跡第2次調査 (RA002 土器出土状況)



上畑遺跡第9次調査



上畑遺跡第9次調査 (RA060)



上畑遺跡第9次調査 (RA065)



上畑遺跡第9次調査 (RB001 独立柱礎物跡)



高橋A遺跡第3次調査



高橋 A 遺跡第 3 次調査 (RA026)



高橋 A 遺跡第 3 次調査 (RA026 カマド)



黒石野平遺跡第 7 次調査



山王山遺跡第 11 次調査



山王山遺跡第 11 次調査 (RD144)



山王山遺跡第 11 次調査 (RD144)



山王山遺跡第 11 次調査 (RD144 土器出土状況)



山王山遺跡第 11 次調査 (RD144 出土土器群)

写真図版 4



盛岡城遠曲輪跡第13次調査(外堀)



盛岡城遠曲輪跡第13次調査(粘土採掘坑)



盛岡城遠曲輪跡第13次調査出土瓦



宿田南遺跡第9次調査区遠景



宿田南遺跡第9次調査経塚発掘着手前(盛土)



宿田南遺跡第9次調査経塚出土経石



宿田南遺跡第9次調査(6号墓)



西鹿渡遺跡第20次調査 長頸瓶出土状況



# 報告書抄録

ふりがな		もりおかしいせきのまなびかん へんせいい8ねんど かんぼう					
書名		盛岡市遺跡の学び館 平成18年度 総冊					
編著者名		佐藤和男 室野秀文 菊地幸裕 神原雄一郎 今野公顕 佐々木亮二 松川光海 鈴木賢治					
編集機関		盛岡市遺跡の学び館					
所在地		〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 Ⅱ 019-635-8600					
発行年月日		2008年3月28日					
所収遺跡名	所在地	コード 市町村/調査番号	北緯		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
			東経 (世界測地系)				
しわじょうと 志波城跡(99次)	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 しもねがわちやまき 1-10-10	03201	39°41'02	141°06'47	2006.7.24 ～2006.10.24	36	下水道工事
しわじょうと 志波城跡(100次)	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 しもねがわちやまき 1-10-11	03201	39°41'12	141°06'34	2006.9.13 ～2006.11.24	1,291	史料内容確認
いんちんくわん 盛岡地区辺路群	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち2-6 向中野下橋子55-11ほか	03201	39°40'26	141°08'58	2006.4.17 ～2006.12.6	6,923	土地区画整理
つむぎ 紫窪遺跡(31次)	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち1-10 紫子山山前内	03201	39°40'19	141°01'13	2006.9.11 ～2006.10.16	110	市道施設
つむぎ 紫V遺跡(32次)	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち1-20	03201	39°40'26	141°01'08	2006.9.1 ～2006.9.12	25	車庫建設
つむぎ 紫V遺跡(33次)	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち1-11ほか	03201	39°40'26	141°01'08	2006.10.2 ～2006.10.31	2,144	小学校改築
しんげいば 新堀遺跡	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち12-2 平太山子新堀遺跡12-2	03201	39°40'55	141°06'32	2006.8.7 ～2006.10.13	180	公共下水道 工事
いんちんくわん 盛久保V遺跡	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち1 玉山区下土地内	03201	39°51'40	141°10'41	2006.7.11 ～2006.10.18	7,615	国道バイパス 建設
うづぼけ 上辺路跡	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち1-28-1 四角田1-28-1	03201	39°38'08	141°10'15	2006.4.17 ～2006.6.1	556	共同住宅建築
たかやから 高橋A遺跡	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち1 水井24-34ほか 高橋A遺跡1-1 1-1	03201	39°39'01	141°09'27	2006.6.1 ～2006.8.11	3,703	宅地造成
くさしのたら 黒石野平遺跡	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち1-21-1 緑丘2-11-21-1	03201	39°44'20	141°08'46	2006.11.6 ～2006.11.22	1,812	宅地造成
さんのやま 山毛山遺跡	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち1 山毛野56-1	03201	39°41'55	141°09'58	2006.11.6 ～2006.12.15	1,400	宅地造成
もりがわじょうと 盛岡城跡南曲跡	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち1 木町通1丁目6-24	03201	39°42'14	141°09'08	2006.11.1 ～2006.12.15	1,400	寺院改築
しほびなみ 河田南遺跡	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち1 北夕陽館38	03201	39°42'38	141°07'02	2006.4.17 ～2006.6.1	126	駐車場建設
あて 車道遺跡	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち1 北天宮寺42-18ほか	03201	39°42'43	141°07'15	2006.6.5 ～2006.6.13	513	個人住宅兼共同 住宅宅地造成
しほびなみ 西鹿沼遺跡	いわてけんもりおか 市岩手県盛岡市 なかまきまち なかまきまち1 二本柳2-39	03201	39°39'52	141°09'49	2006.7.31 ～2006.8.11	320	個人住宅 進入路工事
所収遺跡名	類別	主な時代	主な遺構		主な遺物		登記事項
あぶ波城跡(99次)	城壁	古代以後	外郭東辺	外人溝跡	あかやき土器		
あぶ波城跡(100次)	城壁	古代以後	南東官物建物跡		須恵器 あかやき土器 鉄製品		
盛岡地区辺路群	築帯	平安時代・近世	堅穴住居跡 溝跡	土坑	土師器 須恵器 あかやき土器 鉄製品(動輪車・刀子・釘)		
紫窪遺跡(31次)	集落	縄文時代中期	堅穴住居跡	土坑 粘土埴輪跡	縄文土器 石器		
紫V遺跡(32次)	集落	縄文時代中期	土坑 柱穴		縄文土器 石器		
紫V遺跡(33次)	集落	縄文時代中期	堅穴住居跡		縄文土器 石器		
新堀遺跡	集落	平安時代	大溝		なし		
盛久保V遺跡	貯米場	縄文時代早期～晩期	堅穴住居跡 土坑 陥し穴状土坑 遺物包含層(縄文早期～晩期)		縄文土器 石器		
上辺路跡	集落	縄文時代晩期・古代	堅穴住居跡 掘立柱建物跡		縄文土器 土師器 あかやき土器 須恵器 動輪車 鉄製品		
高橋A遺跡	集落	古代	堅穴住居跡 土坑(古代以降) 掘立柱列 堅穴 溝跡		土師器 土製紡輪車 鉄製品 附磁器		
黒石野平遺跡	貯米場	縄文時代中期～晩期	陥し穴状土坑		縄文土器 石器(石鏃)		
山毛山遺跡	集落	縄文時代早期・中期	土坑 遺物包含層(縄文早期)		縄文土器 石器(石鏃・石匙)		
盛岡城跡南曲跡	城跡	近世	黒溝(外堀) 堀1探跡跡 遺物包含層(近世)		瓦 陶磁器 漆道具		
河田南遺跡	経塚	中世・近世	中世経塚 近世土灰墓		磁石(一字・多字) 人骨(近世)	H19継続調査	
車道遺跡	城館	中世	溝跡		陶磁器(青磁)		
西鹿沼遺跡	集落	古代	堅穴住居跡 堅穴状遺構		土師器(長頸瓶含む) 石製品		

**盛岡市遺跡の学び館 平成18年度 館報**

2008年3月28日 発行

発行 盛岡市遺跡の学び館  
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番1号  
電話 019-635-6600 FAX 019-635-6605  
E-mail [iseki@city.morioka.iwate.jp](mailto:iseki@city.morioka.iwate.jp)  
URL <http://www.city.morioka.iwate.jp/14kyoiku/iseki/manabikan/index.html>

印刷 株式会社 阿部印刷  
〒020-0873 岩手県盛岡市松尾町2番2号  
電話 019-624-2242